
スプーン

影楼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スプーン

【Zコード】

Z6007L

【作者名】

影樓

【あらすじ】

皆さんは一度は経験した事はあるだろう。突然敵に襲われるという事を。しかも、逃げ出す事すら出来ない時もあるだろう。そう、唐突に敵は死角を突いて襲つてくる。そして更にはスプーンに擬態してまでも襲つて来る事もあるのだ…。

これは涼弥とスプーンの壮絶な戦闘を描いた、激戦の記録である…。

その戦闘はバイト中唐突に起きた。大きな音を立てて。ラーメン屋でバイト中の涼弥は、洗浄機に挟まつたスプーンと壮絶な死闘を繰り広げていた。

時は2分前に遡る…。

「あー、きつちー」

洗い場で丼ぶりを洗つていた涼弥は、愚痴を言いながら山積みになつてゐる食器を素早く乱暴に洗つていた。

この職場では一度洗つた物を洗浄機に掛ける為、籠に丼ぶり等を入れて洗浄機へと流す必要がある。

洗浄機は上と下の両方から熱湯を掛け洗う為、籠の底面は大きなひし形の穴が無数に空いていた。

そう、その籠がこの戦闘の発端であった。

ガチャーン！！

辺りに鳴り響く騒音…とまでは行かないが少々耳に来る音を立てて、スプーンが洗浄機と洗い場の隙間に挟まつていた。

落ちはばそこは地獄と言えよう、決して救出は不可能ではないが相当手間がかかる。

足元に隙間が空いては居るが、手を入れれば泥まみれになるのは簡単に想像がつく。

しかも、涼弥は飲食店のバイトをやつているにも関わらず爪が少し長い。

汚れるのが嫌いという彼の特性を考慮すれば、隙間に墮ちたスプーンを救うのは絶望的と見えた。

「くつ…スプーン如きが…なめんじゃねえぞ…」

如き…そう人間にしてみればそれはスプーン如きかも知れない。だが、こういう厄介な場面では妙な底力を發揮するものだ。

スプーンを始め、箸・フォーク・ナイフなど細く長い食器は隙間に挟まりやすい。

更に後はない状況、少し力を抜けば墮ちてしまうだろう、助けを呼ぶ事もままならない。

しかし長く戦闘を続ければ気の緩みに際しスプーンは地の底へと墮ちてしまうだろう。

スプーンを高速で引き抜く以外救う方法はないのだ。

かくして、涼弥とスプーンの激戦は始まつたのである。

その壮絶な死闘は、30秒間もの時を経て勝敗を分けた。

「…っしゃあ」

30秒…傍から見れば短いその時間は、本人達からすれば無限とも思える時間を闊つていたのも同じである。

戦闘開始から25秒後に涼弥がスプーンの挟まつた角度を90°変える事で、鍔迫り合いとなつていたスプーンの隙を突き、見事にスプーンを洗浄機の隙間から救出したのである。

しかも、洗い場で洗つた直後であつたため、手は洗剤の泡まみれである。まさにライオンとゴキブリのようなハンデをくらいながらも、壮絶な忍耐で見事な救出を果たしたと言えよう。

【完】

(後書き)

まさに30分程度で書き終つた超短編であります。
相当な短い時間で読んで頂けた事を存じます。
しかし短い故に中々の出来栄えで自己満足している作者であります。
この超阿呆な激戦を読んでくださつた皆さんに感謝の意を込めて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6007/>

スプーン

2010年10月17日17時59分発行